人権侵害と闘うフィルム上映会
この国に公民自由権はあるのか

同時多発テロ以降イスラム系アメリカ人に対する不当な扱いが未だ絶えない中、人権を求めて闘った人々を描いた2つのドキュメンタリー・フィルムが4月11日、ハイドパークにあるシカゴ大学で上映された。

2つのフィルム、知られざる日系ラテンアメリカ人の人権蹂躙を語る『隠された強制収容―アート・シバヤマ氏の物語』戦時下においてアメリカに敵と見なされた日系・イスラム系アメリカ人の戦いの記録『Caught in Between―故郷(くに)を失った人々の物語』は、同大学に集まった約40人に衝撃を与えた。

同イベントはシカゴ大学Asian Pacific American Student Collectiveと複数の日系コミュニティ団体により共催された。

◆◆◆◆◆

『隠された強制収容アート・シバヤマ氏の物語』(2004)では、人権獲得を求め続ける日系ラテンアメリカ人の戦いが、現在も訴訟要請中のアート・シバヤマ氏の人生を通して浮き彫りにされている。

第二次大戦中、アメリカ政府は2000以上の日系ラテンアメリカ人を誘拐・強制収容し、日本政府との2度に亘る捕虜交換に利用した。ペルー政府の協力もあり、その殆どがペルー人であったという。

シバヤマ氏は1944年3月、ペルーの家族と引き離され、テキサス州クリスタル・シティにある強制収容所に2年間抑留された。

シバヤマ氏にとって戦争の終わりは戦いの始まりだった。

終戦後、ラテンアメリカの国々の政府はシバヤマ氏らの再入国を受け付けなかった。一方アメリカでは、強制収容されたにもかかわらず不法外国人と見なされ、1000人以上が日本へ強制送還された。

アメリカに残留した人達の大部分は仮釈放され、シバヤマ氏を含む約200から300人がニュージャージー州のシープルック農園で低賃金労働者として働いた。

テキサス州クリスタル・シティー 強制収容所

1952年には、日系ラテンアメリカ人に永住権取得手続きをする資格ができたが、シバヤマ氏は不法外国人のまま朝鮮戦争に徴兵された。戦場に立ったにもかかわらず、1956年まで永住権を取得することができなかった。

日系人強制収容の違憲を認める公民権法が漸く1988に成立した。アメリカ政府は米国籍を持つ日系アメリカ人に2万ドルの補償金を支払い、公式に謝罪した。

同公民権法の下、多くの日系ラテンアメリカ人は補償金を受ける資格から除外された。シバヤマ氏は訴訟を起こしたが、補償金5000ドルにとどまった。

シバヤマ氏他数人は、補償額の上積みとアメリカ政府の違法行為を綴った書類の公開を要求し上告した。しかし、2002年12月、再び要求は却下され、米国の厚い壁に阻まれたシバヤマ氏は国際コミュニティと共に活動を進めることになった。

2003年6月、全米人権委員会Inter-American commission on Human Rights (IACHR)と共に嘆願書を作成したシバヤマ氏は、米政府に対し戦争犯罪に対する補償金の未払いに関して弁明を求めた。

同ケースに協力した日系ラテンアメリカ人のための人権擁護団体Campaign for Justiceは、更に、議会での新法『戦時同等正義法(the Wartime Parity and Justice Act)』の制定を目指している。(次号に続く)

150年の歴史を持つ全米最古、シカゴ最大の不動産会社
ベアード&ワーナー
www.BAIRDWARNER.com
家の売買・引っ越しに
きめ細かいサービスを提供します
お探しの物件を定期的にEメールでお届けします。E-mail: miho.soai@bairdwarner.com
Tel: 847-923-5020 Fax: 847-923-0685
お問い合わせは 相合 美保 (Miho Soai)へ

不動産の総合サービス
COLDWELL BANKER
RESIDENTIAL BROKERAGE
www.coldwellbanker.com
● 家の売買
●住宅ローン
お客様のニーズを最大限に重視します
電話:847-832-2142
今井 章子 イマイショウコ (Claire)
sclaireimai@coldwellbanker.com

▼1面より

池坊華展

尽力し、また供華の研究をして日本に戻ってきた。妹子は聖徳太子の願いによって、如意輪観音を京都中央にまつるため六角堂を建立し、この六角堂内に小舎を建てて観音に司えた。これが池坊の名の起こりとなる。

平安時代になると、供華はますます盛んになり、宮中では、和歌に添えて花が贈られたり、宮廷で花を瓶に挿すことが行われるようになった。

鎌倉時代になり武士社会が始まっても、花を挿すという文化は受け継がれた。武士の住居として書院造りが生まれると、現在の床の間の原型ともいえる押し板の上に、花が飾られるようになり、生花の起源となった。

こうして、寺院や宮廷で飾られる供華というスタイルと、一般の家の床の間を飾る挿花のスタイルが、生花の装飾手法として生かされるようになっていった。

室町時代の半ばには、宮中で行われる七夕会の供華が盛んになり、花を立てて競い合う遊びも生まれた。また、連歌の会や五節会でも、さかんに花が立てられるようになった。

1460年代に入り、花の名手として、六角堂執行池坊専慶の名が知られるようになる。専慶は供華から立花を考案した。それが、時の東山将軍義政に賞美され、発達していった。更に、後水尾天皇の時代には、天皇が非常に立華を好んだため、池坊専好が指導にあたった。宮中では、立華の大会が度々開かれ、専好は立華の名手としてその名をとどろかせた。

その後、貴族、武士階級のものであった立花に対抗して、裕福な町民層でも挿花への関心が高まり、やがて生花の様式が生まれた。近世末には池坊専定が生花のルールを定め、生花の名人として多くの書物を残している。

投げ入れと盛花という様式は、明治初期、日本人の生活様式が西洋化するにつれて生まれた。立華や生花と同じように、これらの様式も草木の出生を生かし、美を表現しようとしているが、より自由に個人の感性をいかした生け方が許されるようになった。

自由花とは、「作者が自由に創作することのできる生花」という意味を持つ。日本が第二次世界大戦によって受けた痛手から立ち直ろうとしている時期に、全く新しい現代的な美の表現方法として創られた。自由化では、「花を生かすこと」という生花の基本理念とアートの基本さえ守っていれば、作者の自由な考え方で、花材と器を選び、好きな形に構成することができる。

また、現在の家元池坊専永は、新風体立華、新風体生花という新しい様式を打ち出している。

The Joys Of Your Heart Live In Your Home

At American Family Insurance, we know that home is the place where you spend the best moments of your life. For this reason, regardless of whether you are an owner or a tenant, we have a great variety of policies that could offer you the protection you need. Call one of our local agents today or visit www.amfam.com to become more informed about coverage options that exist to protect the joys of your heart...home.

American Family Mutual Insurance Company and its Subsidiaries
Home Office - Madison, WI 53783
www.amfam.com
©2005 001479 - 1/05

AMERICAN FAMILY INSURANCE
All your protection under one roof®